

---

2019年度 第3回

# 高校受験公開模試

中学1年 国語

---

—試験時間40分・100点満点—

- まずははじめに、解答用紙に受験番号・会場・種別・氏名を書きなさい。  
(種別は、あてはまる方を○でかこみなさい。)
- 答えは、解答用紙に書きなさい。
- 質問があるときは、だまつて手をあげなさい。

## 高校受験公開模試

国語

— 40分 —

※解答する上で字数の指定がある場合は、「」「」「。」やかぎかつゝなど記号も一字に数えます。

[1] 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- (1) 依頼を承る。
- (2) 王に忠誠を誓う。
- (3) 存外な報酬を受け取る。
- (4) 田んぼを耕す。
- (5) ハツコメを見たが、内容をわすれた。
- (6) 商品のダイカを支払う。
- (7) 毎年この湖には渡り鳥がヒライする。
- (8) カキユウの用事が起きる。

[2] 次の各問い合わせに答えなさい。

・次の(1)・(2)の——線部の漢字の使い方が正しければ○を、間違つていれば正しい漢字をそれぞれ答えなさい。

ただし、解答欄には○、または正しい漢字一字を書きなさい。

- (1) 幽霊が現れる。
- (2) 伝染病の対策を高じる。

・次の(3)・(4)の四字熟語が( )内の意味をもつように、□にあてはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- (3) □寒□温(寒い日と暖かい日が何日かずつ続いて、だんだん暖かくなる)
- (4) □鳥□月(日本の美しい自然)

・次の(5)・(6)の各文の文節の数を、それぞれ漢数字で答えなさい。

- (5) ぼくの姉は隣町の図書館に毎日行く。
- (6) 買つたばかりのボーラーベンをなくした。

3 次の文章を読んで、あとの間に答えてなさい。

高校生の「中原佐和子」は、事故で亡くなつた恋人の「大浦勉学」の家を訪れる。

大浦君の家のチャイムを鳴らすと、お母さんが出てきた。きちんとした服装をしているけど、こないだと変わらず疲れきっていた。お母さんは、「わざわざ来てもらつて」と弱々しい声で言ひながら、中に招いてくれた。何回か遊びに来たことのある大きな家。木でできたまだ新しい家で、インテリアも凝っている。だけど、前とは全然違う。花がそこらじゅうに飾られ、お母さんの趣味のパチチワーグが飾られたおしゃれな家だったのに、今は殺風景で（①）している。

5

奥の部屋に大きな仏壇があつて、大浦君の写真が飾つてあつた。ちつともかわいくない花が生けられ、おいしくもなさそうな饅頭が供えてある。死んでしまうのは、本当に悲しい。

私は今度はきちんとお線香を上げ、大浦君に手を合させた。今までたくさん大浦君のことを思い出して過(せりゆく)した。後悔したり嘆(なげく)いてみたり、大浦君のことはかりを思い浮かべて時間を過ごした。そのせいか、今日はとても現実的な気持ちで、ただ大浦君が安らかに眠れるように祈(いの)ることができた。

10

「これ、あの、いらっしゃるかもしれませんんですけど……」

お線香を上げ終え、リビングに通されたA私はお母さんに紙袋を差し出した。大浦君に作ったマフラーだ。渡(わた)しても迷惑かもしれない。そう思つたけど、大浦君の元に届けずにいられなかつた。

wat

「クリスマスプレゼントね」

15

お母さんは静かに微笑(ほほえ)んだ。

「ええ。Bなんだか今更なんですか? マフラーなんです」

16

「まあ、中原さんが作つたの?」

17

「ええ、まあ」

18

お母さんはせつかだからと、包みを開けてマフラーを取り出すると、すぐすてきね、じほめてくれた。

19

「お渡(わた)しても、迷惑だとは思つたんですけど」

20

「すぐ書(か)んでると思うわ……」

21

お母さんはマフラーをしばらく手に持つてじつと考え込んでいた。それから思いついたように顔を上げた。

22

「これ、あげちやだめかしら?」

23

「へ?」

24

「このマフラー、勉学に渡してやれるんだつたら、どんなにでもして渡してあげたいと思う。だけど、私じゃどうしようもできない。どれだけ仏壇に供えていたって、勉学の首に巻かれることは永遠にないし……。せつか、中原さんが作つたんだもの。使わないともつたいないと思わない? マフラーまで勉学と一緒に眠らせておくなんてすごく悲しい」

25

「ええ……」

26

お母さんの言うことがいまいやよくわからぬまま私は相槌(あいだま)を打つた。

27

「だから、あげちやだめかしら? 寛太郎(かんたろう)にあげちやだめかしら」

28

「寛太郎君に?」

29

寛太郎君は大浦君の二つ年下の弟だ。と言つても、私は写真でしか見たことがない。お葬式(おうしき)のときにもいたのだろうけど、そのときには気づかなかつた。

30

「ね。中原さんがいやじゃなかつたら、そうしましよう」

31

お母さんは私の返事を待たないまま、弟を呼んだ。

32

部屋から出てきた弟は私の顔を見るといつとしましたま頭を下げた。大浦君と似(いは)っているのは目元だけで、後はあんまり似ていない。愛想の良い大浦君とくらべて、やでくされた表情のせいか、ずいぶん大人びて神経質(そうしつ)に見えた。

33

「えつと、中原佐和子です」

「ここにちは」

弟はそう言つただけで、自分の名前を名乗ろうとはしなかつた。大浦君の話では弟も大浦君同様、自分の名前を気にいってないらしい。まつたくうちの親はネーミングのセンスがないからと嘆いていた。

「これ、中原さんがお兄ちゃんのために作つてくださつたんだけど、お兄ちゃん、いなくなつちやつたでしょ。だから、せつかくだから寛太郎について」

お母さんに強引にマフラーを渡され、断ることもできず、弟は無愛想な顔のままマフラーを受け取つた。

「Cあの、えつと、こめんなさい」

弟がちつとも嬉しそうじやないのを見て、私の方が戸惑つてしまつた。そりや、死んだ兄ちゃんへのプレゼントを渡されたら、誰だつていやな気分がするだろう。

「あの、こんなのはいらぬよね……」

「いえ、ありがとうございます」

弟は、ちつともありがたくない声であったらしく私に言つた。

お母さんに見送られて、大浦君の家を出るとい、ぱらぱらと雪が舞つていた。今年は暖冬だと言ひながら、雪がよく降る。私は（②）重い灰色の空を見つめた。空の奥からは次から次へと細かい雪がこぼれ落ちてくる。

空を見上げながらじっぽじっぽ歩いていると、足音が聞こえた。なんだろうと振り返ると、大浦君の弟だ。マフラーを巻いたままでつづらへ歩いてくる。

私に追いつくと、弟はむすつとした顔のままで足を止めた。何か用だらうか、私が首をかしげると、弟はぼそりと、

「タイミングがいい」

と言つた。

「タイミング？」

私はさっぱり意味がわからず、そのまま聞き返した。

「明日から二学期だから。マフラー。学校に巻いていく」

弟はにこりともせずに言つた。そうだ。また明日から学校が始まるのだ。

「そつか。そうだね。じゃあ、私もそうする」

「一本作つたの？」

「いや、お兄さんにもらつたから。マフラー」

「おそろいか」

弟がつぶやいた。

もちろん、おそろいじゃない。お兄さんがくれたのは高級品で、私があげたのは手作りだ。色もデザインも全然違う。そう説明しようと思つたけど、取りやめた。

「でも、ちよつと長すぎるね」

私は弟の首からだらりとたれているマフラーの端つくりをつまんだ。大浦君に似合つだつて思つて作った紺のマフラーは弟にもよく似合つていた。だけど、大きい大浦君に合わせて作つたから、弟には少し長すぎる。

「D大丈夫だよ」

「そう？」

「大丈夫。僕、大きくなるから」

「そつか。そうだね」

私が言うと、弟は大きくなはずいた。

無む駄だになると思つたマフラーは弟の首元でちやんと巻かれている。私は大きがるもののがくしてしまつだけじ、完全に全てを失つたわけじやない。私の周りにはまだ大切なものがいくつかあつて、ちゃんとつながつていくものがある。

「じゃあ、行くね」

「うん。さよなら」

無愛想な弟はにっこりともせずに、それでも、大浦君と同じように、いつまでも私のほうを向いて手を振つていた。  
た。

(瀬尾まいこ「幸福な食卓」による)

- (1) ( ① )・( ② )にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、各記号は一回しか使えません。

ア ほのぼの イ どんより ウ ずつしり エ がらんと

- (2) 線A 「私はお母さんに紙袋を差し出した」とあります、このときの「私」の気持ちの説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 大浦君の死を悲しんでばかりもいられないで、大浦君への贈り物を母親に渡すことで、彼を失った自分の気持ちを整理したいと思っている。

イ 渡そうかどうか迷いはしたが、お母さんには迷惑でも、やはり大浦君へのプレゼントはどうしても渡したいと思っている。

ウ 大浦君のことばかり思い出して後悔していたが、一人のつながりの品を手放すこと、彼への思いを断ち切りたいと思っている。

エ 悲しみに暮れている大浦君の母親にクリスマスプレゼントを渡しても、受け取ってもらえないのではないかと不安している。

- (3) 線B 「なんだか今更なんですけど」とありますが、なぜ「今更」なのですか。その理由の説明として最も適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大浦君が死んだ後では、もうもらってくれる人はいないのに、彼のためのマフラーを持ってきたから。

イ お葬式のときには弟の存在に気づかなくて、今まで弟にプレゼントを届けられなかつたから。

ウ クリスマスが過ぎ、年も明けてしまった時期なのに、クリスマスプレゼントを持ってきたから。

エ 仏壇の前で線香を上げ、手を合わせてお祈りを済ませた後なのに、お供え物の品を差し出したから。

オ ようやく季節も落ち着き、だんだんと暖かくなりつつある時期なのに、防寒用品を持ってきたから。

- (4) 線C 「あの、えつと、ごめんなさい」とありますが、なぜ「私」はあやまつたのですか。その理由の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 大浦君からもらった高級なマフラーに比べると、手編みのマフラーのできが悪かつたから。

イ 寛太郎という名前を気にいっていないらしい弟に、名前を言わせようとしたから。

ウ 自分が余計なことをしたために、弟がマフラーをもらう羽目になつたから。

エ 弟がちつともありがたくないさうな声で、自分にプレゼントの札を言つたから。

- (5) 線D 「大丈夫だよ」とありますが、ここで寛太郎が言つたことを本文中の言葉を使って四十字以上五十字以内の一文で答えなさい。

4 次の文章を読んで、あとの間に答えてなさい。

生命とは何か？生き物とは何か？これが生物を科学的に研究している人々の最大の関心事であり、これを知るために、日夜、研究に従事している。

最近、人類は月に到達できるようになり、宇宙船を火星にまで行かせて実験できるところまでいっている。科学技術の素晴らしい進歩である。地球の外での実験で、最も興味があつたのは、地球外にも生物はあるのか、ということであった。多くの学者が集まり、一生懸命に議論したのは、生物がいるか、いないか、どのようにして判断したらよいのか、ということであった。<sup>5</sup>

(①)、砂ぼこりのように積もっているけれども、細菌のかたまりかもしれない。今までの結論は、月や火星には、地球にいるような生物は見つかなかつたということである。本当に興味があるのは、月や火星に、地球と違つた生物がいるかどうかであるが、そんなものは探しようがない。

そもそも、地球上の生物の定義すら、厳密にはつきりしていない。<sup>10</sup>一般にわかりやすくいうと、生物は、子どもをつくる機能と、物を食べそれを分解して外へ出す機能をもつ、とされている。(②)、厳密にいうと、これも怪しくなる。生物の定義などは、現在の科学の知識では正確にできない、と考えている学者も多い。しかし、子どもでも、生きている状態と、死んでいる状態の差は、なんとか知つていて。そこで、生物の定義はいつたん棚上げにして、生きている状態とは何か、について次に考えてみる。

生きている状態を物質のレベルで説明できるかと問われると、科学者はお手上げである。そこで、見方を変え、物質のレベルよりも少し大きな、細胞とか臓器のレベルで観察すると、生きている状態の特徴が少し見えてくる。生物は「高度で動的な秩序（生物的）を自発的に発現する能力」をもつていて、ある学者がいついている（清水博『生命を捉えなおす』中公新書）。細胞などは、あたかも一つの生物のように、絶えず物質を取り込んで、必要なものをつくり出し、不要になつたものは分解して外に出す作業を、一刻の休みもなく続けている。これは実に秩序正しく行われており、自発的に行われているようにさえ見える。まさに生物は「高度で動的な秩序」を、自発的に発現しているのである。<sup>15</sup>

しかし、生物が生命を失えば、ただちにその秩序を形成する能力も失われ、それぞれの要素に分解される。これは、生命のない世界では、一般的に観察される現象で、秩序正しいものが秩序のないほうに行くのが自然の流れである。それは生き物の死後、分解される状態をみれば明らかである。たとえば、洗面器に水をためて、その上にインクを落とすと、インクは、時とともに秩序のない状態に拡散していく。これを、「自然是『でたらめ』を好み、秩序立ったものを嫌う」としている人もあるが、この場合の自然是、生命のない自然である。【ア】<sup>25</sup>

しかし、生物が生きている間は、これとはまったく逆のことが起きている。私たちが食べたものは、いつたんその構成成分にまで分解されるが、そのバラバラに分解されたものから、A の情報に基づいて、酵素が生命活動に最も必要なすべてのB と酵素をつくり出す。そして、この酵素のはたらきで、脂肪や糖などもつくり出されて、タンパク質と一緒にになって体を形づくっていく。そのほか、このタンパク質や酵素は、第3章に述べたようにみことなはたらきをするが、そのはたらきの秘密は、姿や形が高度に秩序立つたものであることに基づいている。【イ】<sup>30</sup>

生きている状態から生きていない状態になることを、ふつう「死」と呼んでいる。生きている状態については、前で紹介したように、少しずつ生命科学の分野では解明が試みられている。それは同時に、人間はなぜ死ぬか、生物学的にみて、死ぬとはどういうことか、についての解明にもつながっていく。【カ】<sup>35</sup>

現に今、遺伝子のレベルで、死の問題が論じられはじめている。C 生き物には、人間を含め、死がプログラムされている可能性がある、といわれ出した。つまり、あらかじめ、遺伝子DNAに、死のプログラムが書き込まれているかもしれないということである。たとえば、体を構成する成分を分解するある酵素は、死ぬと同時に活性にはたらき出し、死んだ体を元の「材料」に戻していく。これははたらき方などは、遺伝子に最初から書き込まれていたと考えないと、よく理解できないくらい絶妙なのである。つまり、この酵素のはたらきのスイッチは、死を迎えたと同時にオンに入るのだ。遺伝暗号の解読などが可能となつた現在、私どもは、こうしたことを実験<sup>40</sup>

的に証明しようと研究を始め出している。【E】

遺伝の基本的な謎の一つである、親から子へなぜ情報が伝わるのかの仕組みが、科学的に解明され、遺伝子情報も次々と読み解かれるようになつた。しかし、酵素も遺伝子も、どれほど高度なはたらきをするにしても、物質であることには変わりない。

そして、遺伝子DNAの上には、生物に必要なあらゆる情報が書き込んであると考えられ、さらにその上には、長い長い進化の歴史まで刻み込まれている。DNAは物質であるが、生命と物質をつなぐものであり、このDNAの発見は二十世紀最大のものとされ、単に自然科学だけでなく、思想界や社会の考え方まで影響を及ぼした。さらには、遺伝子工学という形で今、産業界までにぎわしている。

遺伝子と、タンパク質や酵素は、相補いながら、生命活動で中心的役割を演じる。遺伝子は、ほとんど無限の可能性のなかから、一つの可能性を指示し、その指示どおりタンパク質をつくっていくが、その命令を読み取つてはたらくのも、また酵素である。この遺伝子とタンパク質は、自然がつくり出した素晴らしい芸術品とも呼べる姿をしており、はたらきの異なる二つが協力して、生命活動の基本を支えている。この二つの出会いとはたらきがなければ、生命は絶対に誕生していない。事実、最も単純な生物らしいものといわれる病原体ウイルスは、遺伝子と、酵素を含むタンパク質だけからできている。

とにかく、生物のなかには、遺伝子とか酵素とか、無生物には見られないものが存在しており、この二つが、外から与えられたエネルギーをたくみに利用して、生物は、高度に秩序立った組織や器官をつくり上げていく。

(村上和雄「サムシング・グレート」による)

注 プログラム=ある物事の進行状態について、前もって決めておくこと。また、決められた計画や予定のこと。

(1) (①)・(②) にあてはある言葉として最も適当なものを次のA～Eからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、各記号は一回しか使えません。

- A ア しかし  
B イ したがつて  
C ウ あるいは  
D エ たとえば

(2) 本文中には次の二文が省略されています。この二文が入る場所として最も適当なものを本文中の【ア】～【E】から選び、記号で答えなさい。

“でたらめ、とはまったく無縁である。

(3)  A  B にあてはある言葉として最も適当なものを次のA～Eからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- A ウイルス B 遺伝子 C タンパク質 D 細胞 E

(4) 線C「生き物には、人間を含め、死がプログラムされている可能性がある」とありますが、筆者はどういうことを暗示してこのように述べていますか。その内容の説明として最も適当なものを次のA～Eから選び、記号で答えなさい。

A 人間はなぜ死ぬのか、その理由について生物学的に解明できていないこと。

B 親から子へ情報を伝える仕組みである遺伝暗号の解読が可能となつたこと。

C 死んだ体を元の物質に戻していく酵素が、死を迎えたと同時に活性にはたらき始めるところ。

D 遺伝子の上には生きていくために必要なあらゆる情報が書き込んであること。

(5) 線D「産業界までにぎわしている」とありますが、産業界をにぎわしているものは何ですか。最も適当なものを次のA～Eから選び、記号で答えなさい。

- A 進化の歴史 B DNAの発見 C 自然科学 D 思想界や社会の考え方 E

【5】次の①～⑥の短歌を読んで、あとの間に答へなさい。

- ① うすべに葉はいちはやく萌えいでて咲かむとすなり山桜花  
 ② いついつと待ちし桜の咲き出でていまはさかりか風吹けど散らず  
 ③ のじ赤き文鳥ふたつ屋梁にゐてたらちねの□は死にたまふなり  
 ④ ほそほそとなれる生よ雪ふかき河のほとりにおのれ息はく  
 ⑤ 注<sup>1</sup>をやみなく雪降りつもる道の上に注<sup>2</sup>ひとりひとつゑあらしかるべし  
 ⑥ 春の夜に小雨そば降る大原や花に狐の出でてなく寺

若山牧水  
若山牧水  
斎藤茂吉  
斎藤茂吉  
斎藤茂吉  
与謝野晶子

注1 をやみなく=少しの間もやむりなく。

注2 ひとりひとつ=独りひとを言う。

- (1) ②の短歌の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答へなさい。

ア いつ咲くかわからぬ桜に苛立ちを覚えたが、風が吹いても散らない様子に今では力強ささえ感じている。  
 イ いつかいつかと開花が待ち遠しかった桜の花が、今度ははかなく散ってしまうわないかと心配で仕方がない。  
 ウ いつ開花するかと待ち望んでいた桜であつたが、今では花盛りとなり、風が吹いても花が散ることはない。  
 エ いつかは勝手な散り果ててしまう桜の花が、風が吹いても一向に散らずにいる姿には風情を感じられない。

- (2) ③の短歌は「字余り」の歌ですが、③を除く①～⑥の中から「字余り」の歌をすべて選び、番号で答へなさい。

- (3) □にあてはまる言葉を漢字一字で答へなさい。

- (4) ①～⑥の短歌の中から「三句切れ」の歌を一つ選び、番号で答へなさい。

## 高校受験公開模試 2019年度 第3回

一中1国語一

受験番号	日	日	日	日	日	日	日	会場		種別	一般 員 ( )	氏名	
								▲M2-3 (中2 3番の記入例)					

(5)					3		2		1																																																																																			
<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>45</td><td>35</td><td>25</td><td>15</td><td>5</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>50</td><td>40</td><td>30</td><td>20</td><td>10</td></tr> </table>																														45	35	25	15	5																					50	40	30	20	10	<table border="1"> <tr><td>(3)</td></tr> <tr><td>(1)</td></tr> <tr><td>①</td></tr> <tr><td>②</td></tr> <tr><td>(4)</td></tr> <tr><td>(2)</td></tr> <tr><td>(2)</td></tr> </table>		(3)	(1)	①	②	(4)	(2)	(2)	<table border="1"> <tr><td>(5)</td></tr> <tr><td>(3)</td></tr> <tr><td>(1)</td></tr> <tr><td>寒</td></tr> <tr><td>文</td></tr> <tr><td>節</td></tr> <tr><td>(6)</td></tr> <tr><td>(4)</td></tr> <tr><td>鳥</td></tr> <tr><td>月</td></tr> </table>		(5)	(3)	(1)	寒	文	節	(6)	(4)	鳥	月	<table border="1"> <tr><td>(7)</td></tr> <tr><td>(5)</td></tr> <tr><td>(3)</td></tr> <tr><td>(1)</td></tr> <tr><td>(8)</td></tr> <tr><td>(6)</td></tr> <tr><td>(4)</td></tr> <tr><td>(2)</td></tr> </table>				(7)	(5)	(3)	(1)	(8)	(6)	(4)	(2)
45	35	25	15	5																																																																																								
50	40	30	20	10																																																																																								
(3)																																																																																												
(1)																																																																																												
①																																																																																												
②																																																																																												
(4)																																																																																												
(2)																																																																																												
(2)																																																																																												
(5)																																																																																												
(3)																																																																																												
(1)																																																																																												
寒																																																																																												
文																																																																																												
節																																																																																												
(6)																																																																																												
(4)																																																																																												
鳥																																																																																												
月																																																																																												
(7)																																																																																												
(5)																																																																																												
(3)																																																																																												
(1)																																																																																												
(8)																																																																																												
(6)																																																																																												
(4)																																																																																												
(2)																																																																																												

(4) (3) (2) (1)								5		4																
<table border="1"> <tr><td>(4)</td></tr> <tr><td>(3)</td></tr> <tr><td>(2)</td></tr> <tr><td>(1)</td></tr> </table>								(4)	(3)	(2)	(1)	<table border="1"> <tr><td>(5)</td></tr> <tr><td>(4)</td></tr> </table>		(5)	(4)	<table border="1"> <tr><td>(3)</td></tr> <tr><td>(2)</td></tr> <tr><td>A</td></tr> <tr><td>B</td></tr> <tr><td>(1)</td></tr> <tr><td>①</td></tr> <tr><td>②</td></tr> </table>				(3)	(2)	A	B	(1)	①	②
(4)																										
(3)																										
(2)																										
(1)																										
(5)																										
(4)																										
(3)																										
(2)																										
A																										
B																										
(1)																										
①																										
②																										